

個人1

2007年5月6日

郵政民営化委員会委員長  
田中 直毅様

拝啓 薫風の候、時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。

日本郵政株式会社が4月27日に提出した「日本郵政公社の業務等の承継に関する実施計画」の審議は明日、5月7日から郵政民営化委員会で審議が始まります。しかし5月1日、日本郵政公社は東京中央郵便局が所在する、丸の内2丁目計画(仮称)の建築設計業務の公募を開始しています。パブリックコメントの受付は5月1日に開始されたところであり、郵政民営化委員会の審議を経ずに、設計業者の公募を行うことに問題があります。

- (1) 建築設計業務は WTO 政府調達協定に基づき公募する必要があります。参加を意思表示するものは、日本郵政公社本社の建築設計(意匠)、建築設計(構造)、設備設計(電気)、設備設計(空調衛生)及び設備設計(機械)すべての平成 19 年度の設計業務競争参加資格の認定を受けていること、などが求められています。参加資格は随時受付が可能ですが、毎月15日までに受付したものは、翌月1日付けの認定となり、公示を見てから申請すると5月14日の締め切りに間に合いません。また公示が日本郵政公社のホームページに掲載されたのは5月3日(祝日)であり、発注手続きに瑕疵があると懸念されます。
- (2) 郵政省から日本郵政公社が継承した資産は、郵政事業の継続に必要な資産であり、未利用財産、低利用資産は、国(財務省)の所管として整理されました。東京、大阪、名古屋の中央郵便局は郵便局窓口のみとし、それ以外の大部分(9割以上の面積)を賃貸事業にする計画なら、3中央郵便局の土地は、一旦、国に返還すべきです。国営の郵政事業の資産は本来、国民共有の資産であり、これまで固定資産税などが減免されてきた経緯を踏まえて、国民の利益を第一とした利活用計画が検討されるべきです。不動産会社、建設企業の開発利益を優先することは、郵政民営化を支持した国民の期待に背くこととなります。
- (3) 全国の郵便局ネットワークの維持のため3中央郵便局を一度に不動産開発し、その利益を充填すると言うのは、郵政民営化の趣旨に反し、またリスクが大きすぎる経営計画です。景気変動や社会情勢が激変し、当初期待していた不動産収入が得られない場合、郵便局ネットワークの維持が危うくなる計画は避けるべきです。
- (4) 全国の郵便局ネットワークの効率化、サービスの向上こそ、まず民営化後の郵便局会社に取り組むべきことです。特定郵便局は業務量にあった定員配置とし簡易郵便局に移行する、都市部の窓口機能は利用しやすい場所に配置換えし、営業時間も弾力的にするなどのことを行えば、不動産収入に頼らずとも、健全な事業経営が可能になると思います。

敬具

## 個人2

去る5月1日付けで新聞各紙に、東京中央郵便局の高層化（地上37階、地下4階、延べ床面積19万平米）が報道せられ、郵政公社は1日から東京中央郵便局の建て替え基本設計業者の募集を始める旨の記事であったが、以下の点から東京駅前の現在地に於ける東京中央郵便局の現庁舎解体／超高層化改築には強く反対する。（1）当該の東京中央郵便局庁舎（吉田鉄郎設計）は、大阪中央郵便局などとともに、極めて貴重な文化遺産であるとして、予て日本建築学会、日本建築家協会(JIA)、DOCOMOMOJapan などから「保存要望書」が郵政公社等宛に提出されており、専門家間では既に重要文化財相当の近代建築としての評価が定まっていること。また、当該地域の歴史的建造物として完形をとどめ、かつ重要なランドマークをなしているものとしてもこれを敢えて毀損する必要を認めないこと。（2）部分保存（例えば現在の東京駅前広場に面した部位の壁面など）も、当該の建築がモダニズムの建築であって、機能美を意識して構築され、後背（南側）の車寄せなどの動線やそれらユーティリティ部分の見せ方にも十二分な配慮がなされており、仮にこの南側敷地と現建物の一部保存の組み合わせで「歴史性を継承した」「部分保存した」というのは、同地付近の銀行協会旧館や工業倶楽部会館の轍を踏む愚行である。（3）今後、土地の景観や歴史性に一顧の配慮もせず「土地の有効活用」＝超高層等による土地開発をすすめるのであれば、逡信省営繕時代からの文化財的な建築遺産（大阪中央郵便局、飯倉庁舎、簡易保険局（東京都港区三田）など）の破却が懸念され、その先駆（パイロットケース）としての東京中央郵便局の「再開発」なのであれば、このような安易な破壊行為は文化に対する冒瀆であり、到底容認できるものではない。（4）仮に、東京中央郵便局上空の「未利用容積」を活用して何らかの営利事業を企図するのであれば、（特定行政庁などと協議の上）大手町に休閒している逡信総合博物館東隣の敷地等に建築容積を移転するなど、都市計画諸制度の利活用によって、当該の歴史的建築を（2）（3）のような破壊を経ずして佳く保全し、かつ相応の容積を消化した建築の新築行為を（一定の地域内で）実現出来る筈である。本点に関して然るべく検討を尽くすべきである。（以上）

### 個人3

東京中央郵便局の建て替えが具体化しているようですが、この建物は、わが国の昭和初期につくられた近代的オフィスビルとして、高い建築的・文化的価値を有するものです。新計画の設計に際しては、保存・復元の検討内容と齟齬をきたさないよう、慎重な配慮を求めます。今後、予定されるであろう大阪中央郵便局など全国の郵政公社の所有する建築的価値の高い公共建築物についても、保存や復元などに配慮した慎重な計画の検討を求めます。過去の文化遺産をたいせつに保存し継承していくことで都市の魅力が増します。わが国が文化国家としての品格を備え、文化的かつ洗練された市民社会の実現を希求します。

## 個人 4

東京中央郵便局の高層化計画についての意見書このたびゴールデンウィーク中の5月1日に東京中央郵便局をはじめ、大阪、名古屋での中央郵便局高層化計画が公表されました。改めて申し上げるまでもございませんが、東京中央郵便局は昭和6年に完成した近代建築の名作といわれるものです。郵政営繕の吉田鉄郎の設計で、完成後、ドイツ人建築家ブルーノ・タウトに絶賛されたことでも知られています。現在の東京駅前には超高層ビルで視界を遮られ、重苦しい空間になってしまいましたが、私企業であるJR東日本が東京駅の赤レンガ駅舎を創建時の姿に復原するのは快挙といえましょう。JR東日本も20年前に民営化したわけですが、国民的財産である東京駅を保存修復することに大きな努力を払ってきました。これは、単に文化財保護という観点にとどまらず、JR東日本の社員の誇りのシンボルとして、社運を高めるのに大きく貢献したのではないかと推察いたします。同様のことが郵政新会社にも言えるのではないのでしょうか。東京駅の赤レンガ駅舎と白タイルの東京中央郵便局は、両方が隣接してあることによって歴史的な豊かな空間を作っています。東京中央郵便局を壊すのは簡単ですが、一度壊したものは元に戻すことはできません。この名建築を活かすことを選択し、市民のための豊かな空間を確保して欲しいと切に願っています。特に、都心では超高層ビルの乱立により、ヒートアイランド現象が急速に進んでいます。国民とともに歩む郵政新会社には、環境問題にも細かな配慮を是非ともお願いいたします。

## 個人5

郵政民営化は、多くの難しい問題を含む事業だと考えられる。特に、国つまり国民のものであったものを民営化するに当たり、蔑ろにされてはならない点がある。各地の中央郵便局の歴史的・文化的遺産としての価値が挙げられる。特に、吉田鉄郎によって設計された東京中央郵便局並びに大阪中央郵便局は（社）日本建築学会、（社）日本建築家協会から保存活用要望書が提出されている。これらの建物は、日本の建築・都市景観の観点からばかりでなく、優れたデザインを通して、庶民的で権威主義的でない官庁建築物のあり方を国民に知らしめ浸透させた点でも素晴らしい国家的な文化遺産と言える。歴史的・文化的遺産は国民全てのものであり、民営化されてもその価値を剥奪することはできない。民営化により、いかに経済の採算が重視されようとも絶対に経済原理を優先させてはいけない点だと考えられる。日本の文化を傷つけ犠牲にしての民営化は失敗と言わざるを得ない。民営化を成功させるためにもこの点十分にご配慮頂きたい。

## 個人 6

提出者が[ ]を務める日本建築学会建築歴史・意匠委員会ドコモモ対応WGは、貴公社の東京中央郵便局庁舎を、日本近代の重要な建築遺産のひとつと認識し、本会とドコモモ日本支部が協同で2003年に選定した「DOCOMOMO Japan100選」のひとつにあげさせていただいております。今回の当該建物の存続が危ぶまれる旨の報道を受けて、同建物の保存を要望いたします。その理由として、同建物は、戦前の日本の近代建築の代表例として、すでに国際的な認知を受け、近代建築史上著名なものとなっており、以下の歴史的・建築的価値があると考えております。1)戦前の日本の近代建築の代表例であること東京中央郵便局庁舎は、窓口業務・郵便集配業務・オフィスという機能に対応するための施設として計画されました。敷地はほぼ台形状で、そのブロック全体を占めることになるので、すべての立面が眺められる対象になり、そこに首都の「中央郵便局」としての威厳をどう表現するか、そして外観と機能との対応をどうするかが、設計の重要なポイントだったと考えられます。これは解決がかなりむずかしい設計課題といえます。それに対して吉田鉄郎は、駅前広場と丸の内のオフィス街側をこの建物の主立面として扱い、そちら側に5階建ての壁面をまわしました。そして、その長大な立面の各辺ごとに対称性を意識したまとまりをつくることによって立面全体に統一感と変化を与え、冗長に陥るのを巧みに避けています。たとえば広場側（北側立面）の中央に主玄関を設け、その上に時計を配して、その軸を中心としてその両側に同じ幅の窓を4つずつ並べ、その両端に幅の狭い窓を1つ配する（それによってその窓の両側に少し幅広の壁がついてこの北側立面にひとつのまとまりが感じられる）というようなやり方です。また、4階と5階の間の外壁に胴蛇腹を通すとともに、窓の高さを上階にいくほど低くして、立面を引き締めています。しかも、その窓の高さの違いはその後ろの室の機能にも対応しています（たとえば、1階の窓口（旧・公衆溜）のスペースの天井は高いことが必要で、5階の吏員宿直スペースの天井は低くてよい、ということです）。外壁には装飾はなく、柱型やスチール・サッシュの割り付けでアクセントがつけられているだけです。ひじょうにシンプルなやり方ですが、それでいて威厳を表現し得ています。また、柱型が威厳を表現するための手法だったことは、駅前広場とは反対側（南側）の集配口の立面にはそれが見られないことからもうかがえます。このように、複雑な平面形の、大きな建物ではありますが、細部にまで神経が行き届き、二丁掛けタイルを基本モジュールにした立面のディテールにも破綻が見られません。このようなやり方はそれまでの日本の建築には見られず、ブルーノ・タウトが絶賛したのも、また当時の日本の近代建築家たちがこぞって賞賛したのも当然といえましょう。その後も日本の近代建築史では必ず言及される、重要な建築遺産になっています。また、改装されているとはいえ、内装にも各所に当初の面影が残っています。たとえば、窓口業務を行う場所の柱などは、シンプルさを標榜した当初のデザイン・コンセプトを保っています。2)日本近代の有名な建築家・吉田鉄郎の代表作であること吉田鉄郎（1894-1956）は、東京帝国大学建築学科を1919年に卒業し、直ちに逓信省営繕課に勤務しました。その優れたデザイン・センスと誠実な人柄に率いられた逓信省営繕課は黄金時代を迎え、日本の近代を代表す

る優れた建築を数多く世に送り出しました。その学識も生前から高く評価され、日本の建築や庭園に深い造詣を持っていたことが知られています。ドイツ語に堪能だったことを生かし、” DasJapanischeWohnhaus ”（1935）や” JapanescheArchitektur ”（1952）、” DerJapanischeGarten ”（1957）を、いずれもドイツのヴァスマート社から出版して日本文化を紹介し、海外から高い評価を得ています。東京中央郵便局庁舎は、その吉田の作品の中でも、大阪中央郵便局庁舎（1939）と並び称される、郵便局建築の最高傑作として日本の建築界で高い評価を得てきました。3)東京駅前の景観を構成する重要な建物であること東京中央郵便局庁舎は、東京駅丸の内駅舎の南隣に位置し、同駅前の景観を構成する重要な要素として親しまれてきました。首都・東京の玄関口を飾ることを意識してつくられたもので、東京駅とは別の、上記のような近代的な手法でそれに応えたことは、都市建築の好例として注目すべきものです。また、丸の内では戦前の建物が数少なくなっており、東京駅丸の内駅舎と隣り合って建つ東京中央郵便局庁舎は、東京駅前の戦前からの景観を維持する建物としても貴重なものです。以上のことから、当該建物は、文化的意義と歴史的価値を有する貴重な遺産と考えられます。日本近代を代表する、このかけがえのない建築遺産が後世に継承されますよう、格別のご配慮を賜りたくお願い申し上げます次第です。

## 個人7

大阪中央郵便局はこれまでの郵政事業を体言継承する価値の高い歴史的近代建築物であり、もとより国民の財産であることを基本に有効活用されなければならない。現建物を保存活用することによって、民間高層化が進む大阪駅前地区での存在価値はむしろ高められるので、単なる建替用地資産とみなされるべきではない。郵政民営化が貴重な建物財産建替えによる床貸し推進業化の追求になっては決してならないのである。貴社には、今世紀がめざすべき持続可能型都市づくりに率先して貢献する使命が一般他社以上に高い。現建物上空の余剰容積を近傍地に移転売却もしくは隣接棟の増築による新旧一体的な魅力ある事業開発によれば、現有建物と用地資産とが有効合理に活用されよう。名古屋・東京の各中央局再開発においても、各々の独自性を生かす同様の保存活用事業としていただきたい。



## 個人 8

この度の、「日本郵政公社の業務の承継に関する実施計画」に関して、新聞各紙の報道によりますと、東京中央郵便局におきましては「保存復元方策も検討」と付記されているとはいえ、高層化（地上 37 階建の超高層ビル）と書かれております。一方、全て保存する案から、全て取り壊して高層化することを視野に検討していくのだということも聞き及んでおります。また今後大阪、名古屋をはじめとする中央郵便局も立替の検討もしていると付記され、報道されました。いうまでもなく各地の中央郵便局は、郵政建築関係者（かつては逓信省）の英知を注いでつくられた建築で、日本の建築界に大きな刺激と影響を与えてきた建築群です。ことに、東京と大阪の中央郵便局は、郵政建築（逓信建築）を率いた「吉田鉄郎」の代表作として知られ、優れた近代建築を選定する DOCOMOMO 選定建築物として選定されました。このリストは広く世界に伝えられております。東京駅、大阪駅という日本の要の駅に面して長く存在し、人々の記憶の中にも留まって愛されてきた日本の都市を考える上で欠かせない建築です。この建築がなくなることは、日本文化を考える上でも大きな損失になります。新聞報道では「復元方策も検討」とされていますが、レプリカ（あえて偽者といっても良いと思います）では文化の継承はなされません。これから様々な検討がなされてゆくと思いますが、「建築が歴史の上での価値」だけでなく、人々の生活や生きていくうえでとても大切な「記憶」という視点での価値判断も是非考慮していただきたいと存じます。また本来なら、こういう建築存続の検討に際しては、時間が必要です。短絡的に収益を図るだけでなく、価値を確認し、法整備などをしても例えば容積移転を測ることも視野に入れ、両立する方法の検討もされるべきだと思います。しかし何をおいても、この建築の存在することは、国民の大きな資産、利益なのだという根源的な建築文化を認めるところからの検討をスタートとしていただきたいと繰り返しお願いする次第です。

## 個人 9

東京・大阪両中央郵便局の建替えに関連して2点ほど意見を申し上げます。第一に、建替えの論議を行う以前に、まず両建物については率先して文化財としての指定に向けた答申手続きが行われるべきであろうと考えます。それぞれ文化財的な保護を受けないながらも既に保存要望書が提出されているなど日本の初期近代建築の最も代表的な実例とされております。既に重要文化財の指定を受けた例として旧逓信省の「西陣電話局」(岩元禄設)、及び「渡辺翁記念館」(村野藤吾設計)が挙げられますが、東京・大阪両中央郵便局もこれらに勝るとも劣らない重要性を持つ建物と認識しております。しかも特に東京中央郵便局は旧逓信省の技術の粋を結集させ国家予算の一部を投入して実現された国民にとっての遺産でもあることをご認識頂きたく考えます。第二に、両建物については老朽化部分の修繕を行うのみにとどめた建物全体の保存がなされるべきと考えます。周知のように設計者吉田鉄郎は設計者の鑑とも言える程真摯な態度で建物全体から詳細に至るまであらゆる側面まで徹底したデザイン力を発揮したことで知られます。従って所謂イメージ保存的な考え方では到底吉田の設計の本質を継承仕切れないであろうと感ずるからです。今日では未利用容積率の移転といった方法で解決可能と聞き及びます。以上2点について、今後も時間をかけたご検討を行って頂くようお願い申し上げますと共に、必ずや後世に胸を張って継承できる結論が得られるものとの期待を込めて申し上げます。

## 個人10

2年3カ月ほど前から公社（本社）、各々に設置されている郵便局を管理、監督をしている公社の支社に対して（自分の身に現実起きていること）を何とか解決したく話し合いや電話にての問い合わせなど個人で出来る範囲でやってきましたが解決がしない為、メールを送ることにしました。まず第一に郵便法のなかの1つに普通郵便は受け取り人に届かなくてもかまわない（保障の対象外に定められている）これは民間会社であれば詐欺行為ではないのか。定められた金額を払っている。第2に不着申告をしても普通郵便など記録が残らないものは他人の善意（好意）がなければ出てこないことをしていながらその結果は約1カ月位立つと監督支社からお詫び状なる紙切れが1枚届く（私はこの内容に疑問を感じ郵便物の流れ（差出人～受け取り人）の間に介在する郵便局に対して本当に支社から送られてきた内容を実施しているのかをたずね聞きました）がやっている実態は殆ど無し、記録さえ保存していない）、第3に公社（本社、郵便事業部やその他部署）、総務省（郵便行政局、郵便企画課、行政評価局、他etc）、私が居住している郵便局を管理・監督下に置いている南関東支社（郵便事業部）からは全くの問い合わせなどなし。第4に最寄の郵便局には不着申告しても（不在郵便を取りに行ったついでや電話でたずねても）途中の経過などを教えない。第5に郵便物が届かないばかりか他人の郵便物が誤配達されたり、時には郵便が放置していたりして現場を見に来る様に連絡しても理由をつけてこない（何通も私自身が保管中）、第6にこの様な仕打ちが度重なっている為ただ誤配したものは正当受取人様の郵便なので返してください、今すぐ取りにいかせます（郵便局長、郵便集配課長、郵便課課長、総務課長）電話を自宅へかけてくるが貴方がたの今までのことを考えたら、はいそうですかいいですよ取りにきてと二つ返事です承できるか（コンプライアンスなどは全くまもらない）とどなりつけると取りにもこなければ連絡も全くしてこない有様です。（郵便を返してくださいという努力すら全くしない）第1～6 という箇所書きにしましたが関係各所は全てこのことは知っていて放置しています。必要であれば保管郵便物のコピーを送りますよ。これは特別行政法人（総務省からは法律関連など以外での拘束が全くなしや身分が国家公務員であっても人事院からの束縛・管理監督が無くなったことでやりたい放題、郵便法を盾に取りズサンな仕事、職務の怠慢、職務放棄、等人事院の取り締まりの権限が公社に移管されたことをいいことに平気で行っているやからにそのまま民間移行会社に社員・管理職として雇用するのか。同じ様なメールは総務大臣あてにも送りました。

東京中央郵便局・大阪中央郵便局他、  
近代建築の傑作と評価される庁舎の運用について

・ 郵政省（旧逓信省）の近代建築は、建築学的・建築文化的に有益な建築が多く存在します。

それは、逓信省の頃には実に優秀な建築家が多く存在し、時流もあつてか、建築家の才能が存分に発揮されているように思われます。東京中央郵便局・大阪中央郵便局の吉田鉄郎氏、山田守氏、現在もお元気で活躍されている内田祥哉氏など、近代～現代建築を語るにおいては外すことの出来ない方々が、当時の逓信省には多く居られました。今の郵政省は全くダメで、完全にお役所仕事の設計に成り下がってしまっているように感じます。

経済的な側面や効率、構造上の問題や設備上の問題はあると思われるが、現代の技術でフォローできるはずである。このような即物的な問題を重要視して建替えを検討する以前に、もっと大切な精神的文化的のレベルの問題を、「歴史検討委員会」や「郵政民営化委員会」でよく検討されている内容を社会に啓蒙するべきだと思われます。

当然多くの中央郵便局が建っている場所は、いわゆる一等地で、民営化されて不動産業務ができるようになると、まず金儲けの対象になろうかと思えます。

ただ懸念するのは、これほどの名建築があることをどれほどの人が知っていて、どれほどの人に愛されているのか、そんな事を知らないまま勝手に建替えられてしまったとなれば、これほど民意を蔑ろにした話はないと思われます。

学者の方々の「保存」の一辺倒もどうかと思えます。それぞれの立場もあろうかと思いますが、もっと広く情報を提供されて、本当に民衆に愛されている価値ある建築は残すべきで、そうでないモノは建替えられるべきだと考えます。私感ではバブル期前後の建築は見るに耐えないものが多いように思います。

いま一度検討委員会等で議論されるとき、偉い学者先生の方々だけでなく、小さな民意も汲んでくだされば、先達が残してくれた偉業を少しでも共有できるのではないかと考えます。

以上

## 個人12

予てより報道媒体や、インターネット等で公にされている「東京中央郵便局」の既存建築解体及び高層化に関して、保存のお願いを申し上げます。当該建築は、日本におけるモダニズム建築の優れた作品として評価が高く、是非とも後世に残したいものです。設計者、吉田鉄郎自身も優れた近代建築家で、氏の設計された作品のうち賞を受けているものも有ります。歴史というものは、学校で習うような、とぎれとぎれのものではありません。繋がり続くものであり、一時代の判断で後世に残さなければならない価値あるものを解体してはならないと考えます。歴史的価値ある建築の保存及び、建築のみならず日本の文化の育成の為にも、この建築を残すことを要望いたします。

## 個人13

簡潔に1点のみ申し上げます。東京中央郵便局ならびに大阪中央郵便局の建築を保存すべきです。両建築物は、吉田鉄郎の傑作であり、世界に誇るべき日本のモダニズム建築の金字塔と言っても過言ではない作品です。日本の美意識に一つの出自を持つモダニズムが、ヨーロッパからもたらされ、さらに日本的モダニズムを意識して結実した。極めて文化的価値の高い歴史遺産です。このことは、既に多くの識者の指摘するところで、多くの保存要望書が提出されている事からも、疑う余地のないほど確かなものと言ってよいでしょう。

これほどの建築物を滅却するようでは、美しい国づくりなどできないと存じます。滅却されたとなれば、たとえ、容積率の緩和によって幾らかの財政が改善したとしても、それにかえ難い歴史（記憶の容器）は永遠に葬り去られることとなります。先人の優れた営為を、濡れ手で粟の容積率規制緩和による利益に替えて尊重しないような国には、子供も心豊かに育てにくいでしょう。

欧米の先進諸国では、こうした建築物は、必ず保存を前提に議論がなされています。街の姿や未来は、歴史の上に立脚しているべきという哲学に基づき、都市がつくられ、市民が誇るべき環境を形成しています。日本においても、自分たちの来し方と行く末を、本物を介して見つめる事のできる環境を整備していくべきです。

彼岸では、街並みや保存に関連する規制のなかで、経済を成り立たせています。それに対して我が国は、歴史や環境を犠牲にしながら経済を廻しているとも言えます。そうした国家が、国民にとって幸福を導けるものとは思えません。

両郵便局は、モダニズムの傑作ゆえに、無装飾である事が、その建築的価値を一般の人々に理解してもらいにくいところがありますが、そうした問題なら、明治生命館と同様に、重要文化財に指定してはどうでしょうか？それほどのものであるとお墨付きがあれば、多くの人の理解を得られるでしょう。事実、それだけの価値づけを受けて当然の逸品です。

そして、レプリカによるまやかしの保存やファサードだけの半端な保存ではなく、少なくとも、日比谷の明治生命館や日本橋の三井本館のようなレベルでの全面保存をすべきでしょう。同時代の建物がしっかり残るのですから、残せない筈はないと存じます。

これらを残すご英断のあることを切に願います。

個人14

日本建築学会事務局の[REDACTED]と申します。申込み時間が過ぎておりますが、何卒受信頂けますようお願い申し上げます。本会より過去2回に渡り、貴東京中央郵便局保存に関しまして、保存要望書を提出しております。つきましては、ご参考までに保存要望書の URL を送信致しますので、ご再考頂き、ご回答頂ければ幸いです。総務大臣および日本郵政公社総裁宛 <http://www.aij.or.jp/scripts/request/document/050726-1.pdf> 日本郵政株式会社代表取締役社長宛 <http://www.aij.or.jp/scripts/request/document/060601-1.pdf>